

学力テスト日本一を長期間に渡り実現する様々な施策について

【秋田県東成瀬村】

秋田県の東南端に位置し、総面積 203.69km²のうち山林原野 93%、このうち国有林がほぼ半分を占めている。標高は最低で 160m、最高 1424m の秣岳（まぐさだけ）周辺は風光明媚な栗駒国定公園となっている。

気候は概して冷涼で、積雪は 2m、多いときは 3～4m に達し、積雪期間は 5 ヶ月にもおよぶ特別豪雪地帯である。

所 感

平成 19 年から文科省が行っている全国学力テストで学力日本一の成績を上げ、それ以降も国内トップクラスの成績を継続し、国内外からも注目を集めてきた。秋田県自体の公立学校における探求型授業の特色ともいえる「自主学習ノート」は県内自治体に広く浸透し、児童・生徒の学習習慣として定着している。東成瀬村では、この自主学習ノートを徹底的に活用している。自主学習ノート以外でも、教室のみならず廊下にも図書や新聞を陳列し、図書室に行かなくても、児童・生徒が気軽に本に触れる機会を作る工夫をしている。

現地を視察し、長年にわたり全国学力テストで優秀な成績を取得しつづけている東成瀬村の特色を考察してきたが、地域的特色もあり、東成瀬村の手法を全て取り入れることは難しいと思われるが、見習うべきことはたくさんある。特に、長期間に渡り、首長や教育長、さらには学校長が入れ替わっても変わることなく、継続されてきたブレない教育方針の遂行である。

教育は結果が出るまで、長い年月がかかるが、東成瀬村の現在の成果も長年の継続によってもたらされたものと考えます。

当町においても、『日の出町教育ビジョン 2023』を基に長年にわたって継続していけるブレない教育方針を構築し、10・20 年先を見据えた教育行政の遂行が必要不可欠であると痛感した。



「子育てアプリ 母子モ」について

【岩手県西和賀町】

西和賀町は、奥羽山脈の山岳地帯に広がる地域で、北には国の自然環境保全地域に指定されている和賀岳、南には栗駒国定公園内の一部となっている南本内岳がそびえ、錦秋湖周辺は湯田温泉峡県立自然公園に指定されるなど、豊かな自然に囲まれている。

所 感

人口動態で言えば、日の出町の約 1/4 強、その中で現在の加入数、解約脱退数などのデータを見ながら感じた事は、子育て世代が対象という限られた利用者層であるため、スマホやタブレット操作のスキルが高い世代が多く、導入初期のハードルは比較的低いと想定された。利用者である子育て世代は共働きのため、平日役所に出向いて諸手続きをする時間がないなどの不便さは、このアプリから一元的に申請ができ、解消できるメリットは大きい。「母子モ」の導入率は全国で 35.3%、東京都では 12 市区 19.4%にとどまっている。本格的に導入を考えるのであれば、日の出町と同じ規模の人口動態の自治体での導入、非導入、他メーカーの導入実績などの調査もして当町として何がしたいのか。この仕組みを導入する目的を明確にして進めていくべきだと感じた。

